

神戸大学
海洋政策科学部



神戸大学

VISION

わたしたちがめざすもの

育てるのは、 海のグローバルリーダーと エキスパートです。

四方を海に囲まれたわが国、日本。狭い領土にもかかわらず、領海を含む「排他的経済水域EEZ」は447万km²で世界6位です。国内の輸出入貨物の99%以上を占める海運業や世界有数の造船業、さらに近年では領海内で海洋資源が発見されるなど、私たちにとって海は欠かせない存在です。産業や研究で、新たな海洋立国としての日本を確立する。国際ルールにのっとり、海を人類共通の財産にする。そのための人材育成を目的とするのが、海洋政策科学部です。

太陽系の惑星で唯一、地球にだけ存在する海。全ての生命の源泉でありながらいまだに解明されていないことが多い人類のフロンティアでもあります。こうした海の研究、開発、利用を牽引する「海のエキスパート」を育成します。

海を 知る／活かす



海で 学ぶ／鍛える

その前身から数えると100年以上にもわたって脈々と日本の海運を支えてきた歴史が、私たちにはあります。航海士さらには機関長や船長としてのスキルはもちろん、会社経営に携わるために必要なマネジメント能力も身につけます。



海を 治める／管する

領海や排他的経済水域など、“海の国境”の根拠となる領域保全や管轄海域を管理する海洋政策の立案、外交問題の解決など、海洋立国・日本を支える海を守り、国際海洋社会をリードする人材になることをめざします。

特色のある取り組み

受験は、理系・文系どちらでも。

2類型入学者選抜

海に関する諸課題に意欲的に取り組む有能な人材を幅広く求めるため、2類型の入学者選抜（文系科目重視型及び理系科目重視型）を導入しています。



海に関する基礎知識を、一般教養に。

海洋リテラシー教育

海のグローバルリーダーとエキスパートに求められる「海洋リテラシー」（海洋に関する広範な基礎教養）を身につけ、めざす専門分野への学びに対する意識の向上を図ります。



練習船での実習や学習で、新たな視点を。

海のアクティブラーニング

附属練習船海神丸による海上・船上体験と社会科学から理工学までの多分野にわたる講義との連携を図り、2年生以降の領域・コースの選択にむけて自らの専門性についての気づきを得てもらいます。



ふたつの専門領域で、多面的に学ぶ。

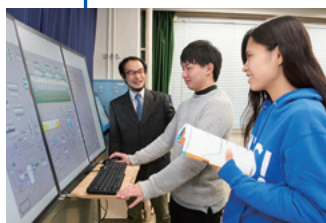
海の専門教育

海洋に関する国際的課題がもつ多様な側面を包括的に理解するために、専門教育においては主専門・副専門制を導入しています。

専門の枠を超えて、課題解決に取り組む。

海のBDL (Beyond Disciplinary Learning)

主に学ぶ領域（主専門領域）が異なる学生でグループを作り、海洋政策科学分野における専門の枠を超えた「超専門的」な課題の抽出と解決策を検討。チーム作業を通じて、汎用的能力とリーダーシップの育成を図ります。



社会経験を通して、海を学ぶ。

海のインターンシップ

海洋政策科学分野に関連するグローバルな企業や国内外の行政・研究機関等での研修・実習・就業体験を通して実社会に通用する実践力を養い、海洋社会や海洋産業への将来の進路の意識を高めます。

総合大学の強みを生かしたカリキュラム

実践的な知識と技術の修得、
さらに海に関する自然科学や
社会科学など幅広い知識を学びます。

コース／領域	一般3領域			海技ライセンスコース	
	海洋基礎科学領域	海洋応用科学領域	海洋ガバナンス領域	航海学領域	機関学領域
概要	理学的観点から、海洋に係る国際的課題や海洋政策を理解するとともに、海洋の成り立ちや、海洋を含む地球システムの物質循環、海洋及び地球環境問題や自然災害、海洋探査技術や海底資源、海洋再生可能エネルギーの開発に関する専門知識を修得する。持続可能な海洋との共生に資する基盤技術や応用科学及び技術の発展に貢献する能力を身につける。	工学的観点から、海洋に係る国際的課題や海洋政策を理解するとともに、船舶や海洋構造物、海底掘削技術など、将来の海洋技術開発に資するマリンエンジニアリングの専門知識を修得する。海洋の有効活用を推進し、海洋の利用と開発に資する基盤技術や応用技術の創造と発展に貢献する能力を身につける。	経済学など社会科学的観点から、海事・海洋分野における科学技術を理解するとともに、様々なモノ（人、物資、金融など）の流れ、国際ルール、地政、経済、経営、政策、戦略など海洋社会に資する社会科学分野の専門知識を修得する。人類と海・船の歴史を踏まえ、将来の海洋の平和利用に貢献し、政策立案に寄与する能力を身につける。	商船学の観点から、船の運航技術と管理に留まらず、海洋政策科学分野の幅広い知識を学び、海技士（航海・機関）としての専門知識と技術を修得する。海事・海洋社会に関する高い見識を備え、政策立案に寄与できる海のグローバルリーダー及び海のエキスパート（神大海技士）となる能力を身につける。	
めざせる将来	海のグローバルリーダー/エキスパート			経営にも携われる 神大海技士	
	・大学院への進学 ・海洋関連企業をはじめとする、各企業への就職 ・行政機関等への就職			・乗船実習科へ進学してライセンス取得 ・大学院への進学 ・海事・海洋関連企業や産業等への就職	

総合大学ならではの幅広い学び



学びと教授メッセージ

海洋ガバナンス

物流管理学研究室 西村 悦子 教授

現代の輸送システムについて、
様々な角度で学びます。

経済活動のインフラ部分を担う物流活動を、社会システム工学的な視点で研究を行っています。私たちの経済活動やその一端を担う港湾のような大規模施設は再現実験ができないため、観測可能なデータを用いたモデル構築が必要になります。政策実現に向けたモデル化技法について一緒に勉強し、物流・交通サービスの改善を目指しませんか。



海洋基礎科学

海洋・気象研究室(気象工学分野) 大澤 輝夫 教授

めざすのは、海や社会に
いかせる気象学です。

沿岸海域を中心とした気象学と、それらの知識を基にした工学的応用に関する研究を行っています。一般的な理学部で習う気象学との違いは、より実践・実用を意識している点です。本学部の舞台である海での人間活動をより安全にし、海の恵みを最大限に利用するために、「使える気象学」をめざしています。



海洋応用科学

海上輸送システム科学研究室(船舶海洋動力工学) 笹 健児 教授

船舶の安全かつ効率的な運航システムを
高度化する技術を学びます。

グローバル化に伴い、今後も海上輸送の規模は拡大し続けることが予想されています。船舶の大型化、多様化、海洋気象の変化など複雑な現象が影響しあう中で様々な問題が発生しています。当研究室では実海域でのモニタリングとビッグデータの分析、これらに必要な船舶海洋工学の諸理論を通じて船舶運航の高度化を実現する方法論について学びます。



海技ライセンスコース

海事人的要因研究室 淵 真輝 准教授

船舶の安全運航に寄与する船長・航海士の
人的要因を学び実践能力を育みます。

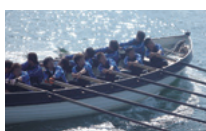
船舶の操縦はその質量の大きさ等から自動車などと比較して“遅い動き”を扱います。遅い動きを扱うことから独特な判断が必要となり、操船者の経験がとても重要です。当研究室では船長や航海士といった操船者を心理学(行動学)的に研究し、船舶の安全運航に寄与するための人的要因について研究し学びます。



高度なプログラムや施設も充実



キャンパスライフ



クラブ・サークル

多くの学生が各種クラブやサークルに入部しています。深江キャンパスでは、カッター、カヌー、ヨット(オフショアセーリング)、テニス、バレー、サッカー、ラグビー、軽音楽などのクラブやサークルが活動しています。



高機能練習船「海神丸」

神大海技士を育成する航海・機関設備、海洋人材を育成する調査研究設備、災害被災地の支援機能を有する練習船として2022年3月に竣工し、実習・実験のほか、教育関係共同利用拠点としての活動、企業研修等の受け入れでも活躍しています。

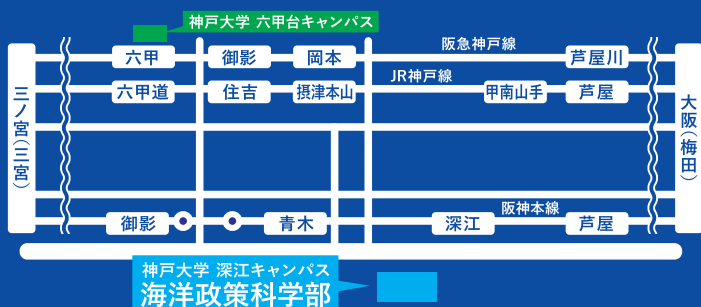
年間カレンダー

4月	入学式・オリエンテーション(1年生)、領域配属(2年生)、第1クォーター授業開始
5月	
6月	第1クォーター定期試験、第2クォーター授業開始
7月	
8月	第2クォーター定期試験、オープンキャンパス、夏季休業
9月	
10月	第3クォーター授業開始
11月	六甲祭(六甲台キャンパス)、第3クォーター定期試験、第4クォーター授業開始
12月	冬季休業
1月	
2月	第4クォーター定期試験
3月	学位記授与式



海に開かれ、 海を拓く

海の神戸大学へ



■深江キャンパスへのアクセス
阪神電鉄「深江」駅から南西へ徒歩約10分。
JR神戸線「甲南山手」駅から南西へ徒歩約20分。



■六甲台キャンパスへのアクセス
阪神電鉄「御影」駅、JR神戸線「六甲道」駅、
阪急電鉄神戸線「六甲」駅から神戸市バスに乗り
(バス系統および停留所は目的地により異なります)。



Ocean Science
and Technology
Kobe University

神戸大学 海洋政策科学部 〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5丁目1-1 <https://www.ocean.kobe-u.ac.jp/>

〈入試・オープンキャンパスに関するお問い合わせ〉海事科学研究科教務学生グループ TEL.078-431-6225

〈その他のお問い合わせ〉海事科学研究科(代表) TEL.078-431-6200

シンボルマークのデザインコンセプトは「OCEAN PLANET」。「7つの海」からなる地球をデザインモチーフとしています。互いに交差する曲線は海洋の波を想像させると共に、海洋政策科学部の「海洋基礎科学領域」「海洋応用科学領域」「海洋ガバナンス領域」「海洋ライセンスコース(航海学領域、機関学領域)」の多岐にわたる学問領域や研究領域を描いており、それらの融合によって生まれ出る新たな発想や創造を波間の発色として表現しています。また、丸い形状は「海惑星」である地球を全体的、包括的に捉える海洋政策科学部のビジョンを示すと共に、人と海の調和を願うカタチでもあります。